



「文字、本と図書館」

学術情報センター長補佐 田 学軍

文字と本は文明の発展と人類の進歩に重要な役割を果たしてきた。図書館は図書の保管、資料の提供拠点として近代文明の発展に多大な貢献をなした。文字は情報の表現形式、紙は情報記載のメディア、図書館は情報保管、提供する機関である。三者は情報というキーワードで密接に結ばれている。現代社会ではコンピュータ、ネットワーク技術によるデジタル化が進む中、三者の形態、役割など従来より大きく変わろうとしている。歴史において情報の扱い方法は大きな変化を経験した。古代中国では最初の文字が亀の甲羅に刻まれた。発見された記載は中国・殷代の祭祀、戦争、農業、牧畜業、手工業、気象、政権組織などの内容である。これらの記載は甲骨文と呼ばれ、最初の本の雛型ともいえる。中国において最初の本は約二千年前の春秋戦国時代に生まれたとされている。文字は簡牘という竹または木の片に刻まれ、1片は8から14個文字が記録できる。簡牘が紐で結ばれ、冊と呼ばれ、当然このような本は非常に不便である。ある説によると始皇帝が毎日閲覧しなければならない簡牘、冊は60キロほどと重かった。前漢の時代、大臣東方朔が作成した武帝への文書は3000片竹簡がある。春秋戦国時代の末期、絹に文字を記録する帛書が現れた。帛書は木棒という軸に巻くのが普通である。そして巻は本の単位とされ、今までも使われている。帛書は簡牘、冊より軽くて使いやすいが、高価で普通の人は手が届かない。昔は情報を残すために文字を記録する媒体で苦労しただけではなく出版はもう一つの難関である。複数の同じの文書を作るために人間が手作業で写す方法が利用されていたが、結構大変な作業だった。最初の印刷技術は木版印刷で中国 7 世紀ころには現れ、木の板(木版)に文章や絵を彫って版を作る凸版印刷である。一度作られた木版は印刷できる部数が数百部にすぎなかった。その後、活字を並べた組版による印刷では、歴史資料より 11 世紀、北宋の畢昇(ひっしょう)によって行われた。最初の活字の材料は膠泥で耐久性と印刷品質はきっと高くなかったと想像できる。このような情報の保存、伝播技術は文明の発展、人類の進歩に大きく貢献した。近代では紙製造、印刷技術の発展と伴って出版された沢山の本、資料が図書館に収集、管理されることで情報はもっと効率的な方式で提供されるようになった。現代ではデジタル化が進んで情報は半導体で保存され、情報量と保存メディアの体積との比率は甲骨文と比べると多くの人は言葉を失ってしまうだろう。さらに情報ネットワークで情報は簡単に伝播し、瞬時に広がり、図書館に行かなくても情報入手できる時代になりつつある。電子ブックを始め、さまざまな閲覧方式が現れ、いつか、本が消えるかなと思ってしまう。本がなくなると図書館は図書館といえるか。しかし、甲骨文、簡牘、冊、本、電子ブック、いくら形式が変わっても情報は必要とされ、情報の収集、分類、保存、提供といったサービスを提供する機関が必要とされるだろう。デジタル化社会において転機を迎えている図書館はいつか“情報館”になるかもしれない。

■オープンキャンパスで「教員とめぐる」図書館ツアーを開催しました

去る8月10日～8月11日の2日間にわたってオープンキャンパスを開催しました。

図書館では例年司書による図書館ツアーを行ってききましたが、今年度初の試みとして、「教員とめぐる」図書館ツアーも開催しました。



大塚英二先生始め鵜殿悦子先生、杉原周治先生、宮崎真素美先生、上川通夫先生、望月彰先生、木幡洋子先生ら7名の先生にツアーを行っていただきました。

それぞれの先生が参加者と一緒に図書館をめぐりながら、資料の使い方や、大学と高校の勉強の違いについてなどをお話されました。

2日間で合計78名の方が先生方の説明に聞き入り、ツアー後には「県大に入りたくなりました」「先生の視点で図書館の見学ができて楽しかったです」「大学生の生活とあわせて説明してくれたのでとてもよくわかりました」等の声が寄せられました。

■オープンキャンパスにて図書館ボランティアが活動しました

オープンキャンパスでは、6月から活動を開始している図書館ボランティアの方々にご協力をお願いしました。

図書館入口にて呼び込みをしながら入館者をカウントしてもらいました。呼び込みの甲斐があっただけ、昨年度を510名上回る2,328名の方が図書館を訪れました。

現在はオススメ図書をテーマとした企画展示の計画が進行中です。今後も図書館ボランティアの活動にご注目ください。



「もっといいレポートを書きたいあなたに贈る情報探索講座」 を開催します

各回とも人数に限りがありますので、お早目にお申し込みください。

★初級編「レポートの達人」

【内容】 講義 DVD 上映＋文献の探し方など
実習 Cinii などのデータベースの検索の仕方など

【日程】 第1回 11月9日（水） 13時～14時
第2回 11月11日（金） 13時～14時
第3回 11月14日（月） 13時～14時
第4回 11月15日（火） 13時～14時

★上級「データベースの達人」

【内容】 講義 県大図書館で利用できる主要データベースの紹介
実習 講義で紹介したデータベースの検索の仕方など

【日程】 <全学部共通編>

第1回 10月24日（月） 13時～14時
第2回 10月26日（水） 13時～14時

<日文編>

第1回 10月12日（水） 13時～14時
第2回 10月21日（木） 13時～14時

<外語編>

第1回 11月16日（水） 13時～14時
第2回 11月18日（金） 13時～14時

*初級・上級とも時間、定員、会場、申込方法は共通です。
また、クラス・ゼミ単位でのお申し込みはご相談に応じます。

【時間】 約60分

【定員】 各回10名（先着順）

【会場】 図書館会議室（実習は図書館パソコン室）

【申込方法】 図書館カウンターで申込用紙に記入ください。または、メールでお申し込みください。

寄贈いただきました、先生方の本を紹介します



佐々木雄太著 『国際政治史：世界戦争の時代から21世紀へ』

名古屋大学出版会 2011 [319.02/Sa75]

小國和子編、亀井伸孝編、飯嶋秀治編

『支援のフィールドワーク：開発と福祉の現場から』

世界思想社 2011 [333.8/O26]

黄東蘭編 『再生产的近代知識』 中華書局 2010 [受入中]

黄東蘭編 『身体・心性・権力』 浙江人民出版社 2005 [受入中]

杉山三郎著 嘉幡茂著 渡部森哉著

『古代メソアメリカ・アンデス文明への誘い』 風媒社 2011 [255/Su49]

■3年生も書庫に入れます

10月1日より、3年生も地下書庫への入庫が可能になりました。

入庫される場合は、カウンターに学生証を提示してください。
書庫から資料を持ち出す場合はカウンターで手続きをお願いします。

開館カレンダー

10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

□ 9:00~21:20 ■ 9:00~17:00 ■ 休館

愛知県立大学 学術情報センター 長久手キャンパス図書館

E-mail etsuran@lib.aichi-pu.ac.jp

http://www.aichi-pu.ac.jp/library/